

## 平成23年度 次代のまちづくりプロジェクト活動報告書

平成23年度の次代のまちづくりプロジェクトチーム（以下、まちプロ）は、メンバーを4月4日から4月18日まで庁内掲示板にて募集し、応募のあった以下の8名に対して5月13日に任命式を行い発足しました。任命式以降は毎月第1、3週の水曜日の業後5時30分（12月19日以降は第2、4木曜日の5時30分に変更）より集まり定例会を行い、主として当初の提案内容について検討を重ねてきました。

平成23年度の活動概要については以下のとおりです。

### ○まちプロメンバーと当初の提案内容

教育総務課	溝口 善之	業務改善ハンドブックの作成について
教育総務課	藤谷 和彦	廃校の活用案
地籍調査室	大宅 一弘	将来の子供のために
生涯学習課	表谷 正樹	放課後の学校利用について
青少年センター	齊藤 弘一	かつらぎ町フォトコンテスト
建設課	塩谷 和久	フルーツを使った地域活性化
やすらぎ対策課	井端 真理	かつらぎ町マップの作成
人権推進室	中崎 善子	クラスター戦略による地域の結束

### ○平成23年度のまちプロで主に検討した内容

#### 1、業務改善プロジェクト

職員数が減少する中で、国・県からの事務移譲などにより職員一人当たりの業務量が増えています。このような状況の中で多様化する住民ニーズに対応していくのは困難であり、新規事業に着手していくことも難しくなってくると考えられます。そこで、業務改善を行い、業務処理の簡素化、スピードアップを図り、住民サービスの向上と職員の執務環境の改善と向上を目指します。

#### 2、廃校の利活用について

統合により廃校となった施設を利用して「農業」をキーワードとする複合施設を整備します。

グラウンドは都会からの週末農業希望者を対象とした貸農園、校舎棟では自然食レストランや安価な宿泊施設、農産物直売所等を設置し、宿泊客や日帰り客などの集客を目指します。

#### 3、かつらぎ町フォトコンテスト

応募作品を広報等様々な用途に使えるという利点があるため、定期的な実施を目指します。

#### 4、知名度UPプロジェクト

かつらぎ町に興味、関心を持ってもらい、観光客を増やすためホームページの充実を図ります。

#### 5、スイーツで地域活性化

「フルーツの町」であるかつらぎ町の特徴を発展させた形で、かつらぎ町産のフルーツを使って、かつらぎ町独自のスイーツを開発、販売し、観光産業の振興を目指します。

#### 6、地域活性化のために公園等の整備

地域活性化のために若年層をかつらぎ町に呼び込む必要があるが、かつらぎ町には小さな子供が遊べる公園が少なく、遊具も整備されていないように感じます。

岩出市のさぎのせ公園や五條市の五條中央公園のように、大型、小型のバリエーション豊富な遊具、芝生化された広場、ベビーシートを備えたトイレ等、整備された公園があれば、近隣市町村からも親子連れを呼び込むことができると考えます。

また、最近では子供が野外で遊ぶ光景を目にすることが少なく、ゲームやパソコンに夢中で家にこもる子供が増えてきています。

公園や学校の校庭を芝生にすることで、景観の向上、環境教育の実践、芝生利用及び管理を通じて地域の輪、地域コミュニティの向上が期待でき、町民をはじめとする使用者の健康や体力の向上も期待できます。

### ○活動内容の紹介

#### 1、緑のカーテン設置

平成23年5月18日、企画公室職員とまちプロメンバーで本庁舎2階の秘書室から企画公室の南側側面にゴーヤ等による緑のカーテンを設置しました。温度計での計測などは行っていませんので緑のカーテンを設置したことによる冷却効果がどれほどあったかは不明ですが、遮光効果、また社会全体での節電への取り組みとも重なり来訪者が注目して話題に挙げるなど話題性という点でも効果があったと思います。また、結実した実は200個程度であり、当初の予想を大きく上回る結果となりました。

平成23年9月12日に緑のカーテンを撤収しました。

#### 2、まちプロ通信の作成発行

今年度よりまちプロとその活動内容に関心を持っていただけるように6月より月1回のまちプロ通信を作成し各課室へ配布しています。内容は、提案内容の紹介や進捗状況、活動内容の紹介が中心となっています。この「まちプロ通信」の発行によって多くの方からご意見を頂くようになり、まちプロの活動について関心を持っていただけたと考えています。

平成24年1月末時点で8回の発行を行っています。

### 3、ジャム作りの提案

かつらぎ町の特産品として季節折々の様々なフルーツが挙げられます。その特産品を使ったお土産品としてジャム作りを提案しました。ジャムであれば市場に流通しない規格外品も廃棄することなく活用することができ、調理法によっては長期保存も可能なのでお土産品として喜ばれるのではないかと考えます。

また、ジャムはパンに使用する以外にもいろいろな食べ方もできます。例えば、ヨーグルトやアイスクリームに乗せたり、紅茶などの飲み物に入れたりする食べ方も人気があります。道の駅や物産販売所、建設予定の京奈和道 PA などでお土産として販売すれば観光客の方に買っていただけたと思います。また同所でアイス等を販売し、トッピングとしてジャムを選んでもらうようにすれば、いろいろな味覚を選べる楽しみも加わって消費の促進につながると思います。

現在、かつらぎ町観光協会の商品化に向けて検討が始まっています。

### 4、知名度 UP プロジェクト

平成23年7月17日、かつらぎ町出身で俳優の小林稔侍氏をかつらぎ町観光大使に任命したことをきっかけに、かつらぎ町の知名度をアップさせる目的でホームページ上に観光大使就任と小林稔侍氏の紹介ページを作成することを提案しました。

平成23年9月の町広報にも観光大使の就任記事が掲載されていますが、町広報と別に町ホームページ上に掲載ページを設けることで、ホームページの内容を充実させ、また町外の方にホームページを閲覧してもらい、かつらぎ町の知名度向上につながると思っています。

### 5、田辺市の秋津野ガルテン視察

10月7日、当初の提案内容にもある「廃校の活用案」を検討するため既に廃校を活用し事業を実施している田辺市の秋津野ガルテン（旧秋津野小学校）にて研修を受けました。研修の内容については別紙のとおりです。

### 6、九度山町の河根小学校視察

12月7日、学校の校庭やグラウンドの芝生化について、既にグラウンドを芝生化されている九度山町の河根小学校にて研修を受けました。研修の内容については、別紙のとおりです。